

ビジネスデータベース実習 (秋学期 1単位)

古賀 広志

Data Processing and Database (Lab.)

■授業概要

コンピュータで処理される業務の大規模化、多様化に伴い、そこで用いられるデータも大容量化している。これらのデータを効率的に管理し、正確かつ迅速に処理する手段がデータベースである。本実習では、事務処理用データベースソフトとして比較的普及していると思われる「Access」を取り上げて、データベースの概念の理解、データベース作成方法を習得するとともに、データベース管理システムについて学習する。まず、データベース管理システムの概要や設計概念について学び、後半では標準リレーショナルデータベース言語 SQL を用いたデータベースの操作方法について演習を交えて学習する。時間的に余裕があれば、MySQLについても言及したい。

■到達目標

本実習の到達目標は次の通りである。

- (1) データベースシステムの基本概念と役割を理解すること。
- (2) 基礎的なデータベースのモデリング及び設計が行えること。
- (3) 問合せ言語 SQL の基礎を理解し、基本的な問合せが行えること。
- (4) データベースソフトを用いて、データモデルを作成できること。

■授業計画

- 1 データベースの概念と Excel のデータベース機能
データベースとは、Excel データベース関数の種類と使用方法
- 2 Excel データベース機能のチェック・テスト # 1
- 3 データベースの種類と Access と Excel の違い
外部データの読み込みと、検索・抽出機能
- 4 レコード、フィールドの操作、ロックアップの利用、データの検索・抽出
- 5 テーブルの作成・編集方法 フィールドプロパティを中心に
- 6 フォームとレポートの作成方法基礎

リレーションシップと正規化

- 7～8 演習課題 1
- 9～10 レポート作成 1
- 11～12 演習課題 2
- 13～14 レポート作成
- 15 総合課題

■授業時間外学習

講義毎に課題を出すので、次週の授業までに課題を解いておくこと。

■成績評価の方法

定期試験を行わず、平常試験（小テスト・レポート等）で総合評価する。

レポート課題（60%）、平常点（40%）

■成績評価の基準

毎回きちんと出席し、きちんとレポート課題を提出することを前提に、出席態度とレポート内容で評価します。やむを得ない事情で欠席する場合（といっても4回以上の欠席は「受講辞退」とみなします）は、初回時の実習時間に指示した期間内に課題を提出すれば、成績評価の対象とします。

■教科書

■参考書

■備考

初回時に指示する。